

# 編集後記

五号にわたった佐藤満洋氏の「太閤検地における村位別石盛り制の研究」が完結した。氏は村位別石盛り制の意義を「在地の実情を考慮した合理的な石盛り制として農民感情を緩和させ、収奪をはかる土地・人民支配策」と結論づけた。

渡部哲治氏「百姓代の成立とその変遷(下)」は前号を承け、百姓代の成立を庄屋の不正と関連させて論じたもの。

安部巖氏「竹と建築」は県内で建築材として竹がいかに利用されたかを明らかにしたもので、第六一号の「笛」に続くものである。

染矢多喜男氏の「蒲江浦の民俗」は県教育委員会の依頼による詳細な民俗調査報告である。

本号は以上のほか、「地方史ニュース・ダイジェスト」(佐藤満洋氏編)、「地方史研究協議会大会参加記」(野口)、「新刊紹介」(野口)をのせた。郷土史関係著者の紹介は是非続けさせたいと思う。

(野口)

昭和四十七年一月二〇日印刷  
昭和四十七年一月三〇日発行

発行人 渡 辺 澄 夫  
印刷人 高 井 久 雄

大分市上野町七番二十五号

印刷所 三恵印刷株式会社  
電話⑤〇一一三番

大分市巨ノ原

大分大学教育学部国史研究室内

発行所 大分県地方史研究会

(振替下関五二九四番)